



平成30年9月18日放送

腹腔鏡（ふくくうきょう）手術について

茨城西南医療センター病院 消化器外科部長 福沢 淳也

司会者：腹腔鏡手術ってなんですか？

福 沢：従来おなかの手術は開腹手術といって、おなかに大きな創をつけておなかを開き直接操作を行う方法で治療を行っていました。腹腔鏡手術とはおなかに数か所の小さな穴をあけて、腹腔鏡というカメラでおなかの中を見ながら行う手術のことです。

司会者：具体的にはどのように手術を行うのでしょうか？

福 沢：おなかに **3mm～2cm** 弱の穴を数か所あけます。ここから腹腔鏡といわれる、胃カメラのような棒状のカメラをおなかの中に入れます。腹腔鏡は手術用に開発された細部まではっきり見える高性能なカメラです。腹腔鏡は大きなテレビモニターにつなげ、手術を行う医師や看護師はそのモニターを見ながら操作を行います。ただ穴をあけ腹腔鏡を入れただけではおなかの中が見えないので、二酸化炭素（炭酸ガス）という気体を入れておなかを膨らませ空間を作ることでおなかの中を見ることができるようになります。そして術者や助手は他の穴から「鉗子」といわれる細い器具を入れ、テレビモニターの画像を見ながら手術を進めます。鉗子とはマジックハンドとか高枝ばさみのような形状、と云えばイメージがわきやすいでしょうか。

司会者：どんな臓器、病気に腹腔鏡手術を行うことができますか？

福 沢：歴史的に最も初めにこの手術が行われたのは肝生検（病気の診断目的に肝臓の組織を一部取ってくる検査）に対してです。それを応用し治療としての手術がまずは胆のう（胆のう結石、胆のう炎など）に対して行われ始めました。その後虫垂（虫垂炎、いわゆる盲腸炎）やソケイヘルニア（いわゆる脱腸）、食道・胃・小腸・大腸（ガンやそのほかの病気）、さらには肝臓やすい臓、脾臓でも腹腔鏡手術は行われています。おなかの臓器はほぼ腹腔鏡で行うことができるということですね。従来開腹で行われてきた手術はほぼ腹腔鏡でも行うことができると言っても過言ではないかもしれません。消化管穿孔（胃や腸に穴が開く病気）や腸閉塞などの急に発症し、緊急手術となるような病気にも腹腔鏡手術が行われることもあります。私は消化器外科医ですので、このような消化器

系の臓器を扱いますが、泌尿器科や婦人科といったおなかの手術を行う科でも腹腔鏡手術を行っています。

司会者：腹腔鏡手術のメリット、デメリットは？

福 沢：まずはメリットについてです。腹腔鏡手術は開腹手術と比べると圧倒的に小さな創で手術することができます。そのため①術後の創の痛みが少ない、②創が目立たなく美容的に優れている、③体への負担が少なく術後の回復が早い（入院期間が短かったり、社会復帰が早かったり）ということが挙げられます。またカメラが近くまでよって見ることができるため、より細かいところまで見ることができます。細かい血管までよく見えますので、一般的に開腹手術と比べると出血量が少ないというデータがあります。また開腹手術だと手術の様子を限られた人（極端な場合は術者のみ、助手ですら一時的に見えないこともあります）しか見られませんが、腹腔鏡手術はモニターで見るためみんなで手術の様子を見ることができます。デメリットとしては、開腹手術と比べると操作がやや煩雑であるため、①手術時間が長い、②外科医が技術を習得するのにやや時間がかかる、③やや費用が高い、といったものが挙げられます。

司会者：腹腔鏡手術は安全ですか？

福 沢：手術ですので残念ながら100%安全ということはありません。しかし開腹手術と比べて合併症（手術がもとになり他の病気やよくないことが起こること）が起こる確率に差がないというデータが出ています。また、治療成績も腹腔鏡手術は開腹手術と比べて遜色がないというデータも出てきています。

司会者：腹腔鏡手術ができない場合もあるのでしょうか？

福 沢：はい、あります。たとえばおなかの中の癒着（臓器どうし、臓器とおなかの壁などがくっついていること）が強い場合、またより進行したガンに対する手術の時は進んでいる場合などには腹腔鏡手術が勧められないこともあります。その他腸が張っていて（膨らんでいて）視野や操作するスペースが確保できないときなども腹腔鏡手術ができません。ただ上記のようなことがあっても必ずしも腹腔鏡手術ができないわけではありません。腹腔鏡手術でできることもありますし、腹腔鏡手術で手術を始めても途中で開腹手術に切り替えることも時々あります。

司会者：腹腔鏡手術を受けるためには？

福 沢：もちろん病気にならないにこしたことはありませんが、万が一手術が必要なおなかの病気にかかってしまった場合には腹腔鏡手術は選択肢に入ると思いま

す。先程も述べたように腹腔内の臓器の手術は、ほぼ腹腔鏡手術で対応することが可能です。ただし病気の状況や手術を受けられる方のコンディションなどによっては開腹手術のほうが、メリットが大きいこともあり得ます。また肝臓やすい臓の手術は開腹でも難易度の高い手術なのですが、これらの腹腔鏡手術はさらに難易度の高い手術となります。現在肝臓やすい臓の腹腔鏡手術は限られた専門施設でしか実施することができません。よってこれらの手術を腹腔鏡手術で希望する場合は、専門施設を受診するのがよいでしょう。いずれにしても手術の方法については主治医とよく相談し、決定するのがいいと思われます。もし治療や手術の方法について疑問があったり納得がいかなかったりする場合には、ほかの医療機関の医師に意見を聞く「セカンドオピニオン」という手段があるので活用してみてもいいかもしれません。

司会者：やはり腹腔鏡手術がいいのでしょうか？

福 沢：腹腔鏡手術は先に示したように創が小さいこと、細かいところまでよく見えることから様々な恩恵を享受することができます。しかしその反対に癒着や腸管拡張など、おなかの中の状況次第では逆に腹腔鏡手術の施行が危険なこともあります。言うまでもなく手術を行う最大にして唯一の目的は、「安全に病気を治す」ということです。創を小さくするためにこの目的を置き去りにしては何のための手術かわからなくなってしまうます。よって一概に腹腔手術のほうが優れているとは言えませんが、開腹手術と同等のことができる状況であるならば、創が小さく負担の少ない腹腔鏡手術のほうがより良いと考えられます。